

No. J01	Aグループ	年月日	令和5年7月2日(日)
---------	-------	-----	-------------

設問

[問い1]

事例Ⅰでは、介護職を目指すCLが、食事介助で注意を受け「モヤモヤした経験が気になる」と訴えているにも関わらず、「良い対応だった」とCCtの価値観を押し付けている。また、他のスタッフの利用者のやる気を引き出す関り方が気になっているCLの気持ちを尋ねることなく、「頑張りましょう」と励ますことで問題解決を図り、助言指導型の関わりとなっている。一方、事例Ⅱでは、「利用者の役に立とうとしてたのだろうか」というCLに、内省が深まる問いかけを行い、更に「我慢している自分をどう思いますか」という自身を客観視する問いかけを行うことでCLの自問自答が始まり、自己理解が始まっているように見受けられる。

[問い2]

事例ⅠのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由： 介護施設の体験会で注意を受け、「やっていけるのだろうか」と不安に感じているCLに寄り添うことなく、CCtの価値観で「たった1回の失敗」と決めつけ内省が深まる関わりが出来ていないように思われる。

事例ⅡのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由： 食事の介助で主任から注意された経験を語っていただく中で、CLの子供の頃の経験から「気に入られたい」と思う自身について問いかけることで、CLの自問自答が始まり、自己理解が深まりつつあるから。

[問い3]

「困った人を助ける人になりたい」と介護職を目指し大学で学んでいるCLが、職場体験会での食事介助役に立てて嬉しかった反面モヤモヤが残った経験や、主任に注意され情けなくなった経験から、本当に自分は利用者の役に立とうと思っていたのか、と気持ちが揺らぎ、自信を失っている。また、介護職員に期待される職務や、本当に利用者のことを考えた関り方について、「頭では分かっていたはず」だが実際には出来なかった経験より、介護職員に求められる役割についての理解不足があるように見受けられる。

[問い4]

子供の頃から介護職員を目指し学んでいるCLの思いや経験を丁寧に伺うことで傾聴を重ね、信頼関係の構築に努める。そのうえで、嫌われないために我慢している自身の気持ちを語っていただき、自己理解をしていただくよう面談をすすめる。また、利用者を手伝うだけではなく、利用者のことを考えた介護職員の仕事に対する思いや考えについて改めて考えていただき、また必要に応じて職場体験の機会を更に設けて、実際に職員がどのような思いで仕事を進めているのかを知っていただき、仕事に対する理解を深めていただく。最終的には、CLが大学卒業後の進路選択において、前向きに主体的に決めることができるよう支援する。

No. J01	Bグループ	年月日	令和5年7月2日(日)
---------	-------	-----	-------------

設問

[問い1]

事例Ⅰは、介護職について不安を感じるCLの感情を受容せず、CCt6で他のサービス業界を見ることを一方的に助言し、CCt8で良い対応だったと励まし、CCt10で1回の失敗で夢をあきらめず、頑張りましょうとCCtの問題解決思考で提案しているため、CLと信頼関係が築けないと思われる。一方、事例Ⅱは、CCt6で利用者に対応した経験を客観視しながら問いかけ、CCt9で手伝いを続けた理由について質問し、CCt10で嫌われないためにしんどいことを我慢している自身についてどう思うか問いかけることで内省を促し、利用者のためではなく自分のために行動したCL自身に気づいたと思われる。

[問い2]

事例ⅠのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由：ただ利用者の言いなりになっていたと感じるCLの感情を受容せず、介護職の夢をあきらめないうで頑張りましょうと無理な励ましを行っている為、CLと信頼関係が築けないと思われるため。

事例ⅡのCCt10 (相応しい)・相応しくない)

理由：嫌われないようしんどい要求に応じていた自身に対しどう思うか質問することで、CLに自己探索を促し、利用者のためではなく、自分のために行動していたCL自身に気づいたと思われるため。

[問い3]

CLの問題は、共通事例のCL2より、困っている人を助ける人になりたいと思っていたが、事例ⅡのCL9より、主任から利用者の自分でできる喜びを奪ってしまう可能性について注意されたことでショックを受けていることから、介護職に求められる役割についての理解が不足していると思われる。また、事例ⅡのCL11より、利用者のためではなく自分のために行動した自身に対して「何やってるんだろう」と発言していることから、介護職を目指す上で大切にしたい価値観についての理解不足もあると思われる。

[問い4]

自分のためにしんどい要求に応じていたというCLの気づきを丁寧に傾聴し、自分のために行動する意味について整理を促す。そのうえで、主任や他のスタッフに利用者の自分でできる喜びについて聞くことを提案し、介護職に求められる役割について理解を深めてもらう。また、これまでの経験の棚卸しを促し、介護職を目指す上で大切にしたい価値観の整理をしてもらい、その理解を促進させる。さらに、job tag等の職業情報収集ツールを紹介し、職業選択の幅を広げてもらえるよう促す。以上により、CLが自身の価値観を明確にしたうえで、今後のキャリアを主体的に意思決定できるよう支援していく。

No. J02	Aグループ	年月日	令和5年7月6日(木)
---------	-------	-----	-------------

設問

[問い1]

事例ⅠでのCCtは、CLが職場体験会で経験した食事介助について、客観視からの内省を促していない。また、CCtの見立てから他の分野や業界へ視野を広げるように助言し、面談を進めたことで、CLの抱える問題解決に至らない応答になったように思われる。一方、事例ⅡでのCCtは、CLが職場体験会で経験した食事介助について励まし、利用者さんへの対応や施設の主任さんとのやり取りについて、内省を促している。そのことでCL自ら客観視することができており、不安の要因の気づきに繋がる応答になったように思われる。

[問い2]

事例ⅠのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由：CCt6の「視野を広げて他のサービス業界をしてみるのはいかがでしょうか」、CCt8の「とても良い対応だったと私は思いますよ」の見立ての応答は、CLの不安の解消を遅らせると思われる。

事例ⅡのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由：CCt6では、不安に焦点を当て、経験代謝を促す応答から、CL自身の気持ちに向き合うことで、利用者さんの対応についての内省に繋がり、不安の解消に進むように思われる。

[問い3]

相談者の問題点は主に2つあると思われる。(1) 高齢者施設も職場体験会で、「こんな対応していて、介護職をやっていけるのだろうか」と不安が湧いてきました、「本当に利用者さんのためになっていたのかな」の発言から介護職の仕事理解不足が見受けられる。(2) 「嬉しかったのですが、その反面モヤモヤが残りました」、「私はそう言われぬように祖母に気に入られようとするのが身についてしまったのかもしれません」の発言から、相談者の自己理解不足があるように思われる。

[問い4]

まずは、幼いころから祖母の介護を手伝い、介護職員を目指して、社会福祉学部で介護について学び、将来の不安や悩みを抱える相談者に寄り添い、労いながら、一緒に問題を解消する。(1) 介護職の仕事理解不足解消のために、大学のキャリアセンターで、卒業生が就労している施設への訪問機会や介護職（ホームヘルパー、ケアマネ等）の方との対話の相談を後押しする。(2) 自己理解不足の解消のために、改めて職場体験会で学んだ利用者の方への介護や主任さん、職員さんとのやり取りの内省を促す。以上から、相談者が自立的に将来のキャリアを選択できるように支援する。